

巻頭言

健康・栄養研究所長 山中 克己

今回、健康・栄養研究所年報の第3号を出版することができました。今回は、英文原著2編、和文原著4編、報告3編を数え、ほぼこれまでの創刊号、2号の編数とほぼ同数であり、各教員の研究活動の継続・実行が感じ取れます。

特に今回は、大島龍彦教授の日本とオーストラリアにおけるダイエットに関する意識調査は、学生の夏期オーストラリアン・カソリック大学（ACU）研修時の引率教員としてオーストラリア滞在中の調査であり、学生の研修から教員の海外での共同研究へと発展する芽であると思っています。また、西尾素子講師の米国のカレッジの事例報告もあり、名古屋学芸大学健康・栄養研究所も世界的流れである国際化への道を歩んでおります。

今年の6月には、本誌は医学中央雑誌データベースに定期刊行物として収録されるようになりました。医中誌 Web で検索できるようになり、名実共に本誌が公表されたものと受けとめると共に、責任の重大さも感じています。

今年は名古屋学芸大学大学院博士前期に8名が入学し、昨年入学の8名と合せて16名の博士前期課程の学生が在籍しています。博士後期課程にも2名が入学し、現在は4名の博士後期課程の学生が在籍して、研究に励んでいます。

これらの若い力を伸ばす一助に、本年報が寄与できればとも考えています。

この年報について、ご意見をいただくと共に、今後のご支援、ご指導をお願いいたします。

2009年3月